

早期米 中干しから穂肥管理技術情報

～稲作で最も重要な管理“中干し”を徹底し高品質・高収量を目指す！！～

1. 生育概況

本年は田植後の気温は概ね平年よりやや高く推移し、日照時間は平年より少なかった。田植え後の活着は早く、生育速度は平年よりやや早くなっている。

今後、稲作において重要な管理である中干しの時期となってくるので、生育量を良く確認し、分けつが確保できたら速やかに中干しの実施を徹底する！！

2. 除草剤散布作業

・中期除草剤

本年は曇雨天が続いたことで古草の発生が懸念されます。

また、初期除草剤の散布ができなかった所や取り残しの雑草がある場合は下記除草剤を散布ください。

詳しくは水稻栽培管理帳（10ページ）を参考にしてください。

摘要雑草	薬剤名	処理量/10a	使用時期
ヒエ	クリンチャーEW液剤	100ml (水 25～100ℓ)	ノビエ6葉期まで、収穫前30日
ヒエ	ロイヤント乳剤	100ml (水 25～100ℓ)	ノビエ5葉期まで、収穫前45日
広葉	バサグラン粒剤	3～4kg	移植後15～40日、収穫前60日
両方	クリンチャーバスME液剤	1000ml (水 70～100ℓ)	移植後15～40日、収穫前50日

3. 中干し前後管理（日照不足が予測され徒長させないように）

(1) 中干しをしていないほ場で高品質・高収量は目指せない！中干しには過剰分けつの抑制、土中の有害物質を抑制、余分な窒素を切り穂肥が適切に出来るようにする、乾く事で根量が多くなるとともに収穫直前まで走り水が出来ると、様々な効果がある。中干しの効果を十分に理解し、必ず中干しを実施する！天候に左右されるので、実施できる時に行く！！

(2) 強い稲、籾の充実を良くするため（収量増加）にケイ酸加里を散布！！

・基肥施用していない圃場は、中干し直前にケイ酸加里を10a当り30kgを施用する。

(3) 中干し時期、方法

- ・1株分けつ本数が平均16～18本になったら開始する。（葉が2枚出ていれば1本）
- ・時期は田植え時期で変わってきますが6月中旬頃に、田植え後40日を目安に行う。
- ・早期米の中干しは、梅雨時期と重なる為、排水の栓を抜くなど工夫が重要。

(注)1・白乾はさせない（軽くヒビ割れる程度。乾けば中干し途中で走り水をする）

4. 穂肥（必ず2回に分けて）

穂肥は、稔りの秋に向けて秋落ちをしないよう養分を補給する。しかし、やり方によっては穂長、屑米、草丈（倒伏性）、葉の長さ、捻実、病害虫等、また、収量にも影響しますので下記通り実施をする。

(1) 穂肥1回目の時期は、幼穂長が2mm～3mmを目安とする。（6月下旬頃）

(2) 10a当り1回目20kgと2回目10～15kg （1回目施用後7日目頃が2回目の時期）

(注1) 生育具合で加減する。過繁茂は、倒伏、病害虫に注意

(注2) 葉色が濃い田圃は、7月上旬に色直しを行う。（葉色4.0基準）

(注3) 基肥一発肥料の場合でも生育ムラがあれば、7月上旬に色直しをする。

5. 穂肥散布時の水管理

・穂肥散布時の水は肥料が溶ける（手たたき水）程度あればいい、その間は根張りを良くするため間断灌水を行う。

※各作業後は、栽培管理帳に必ず記入しましょう。

ご不明な点がございましたら、農畜産課（092-327-3912）までご連絡ください。